

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from a week to 3 months)

記入日/Date: 2023/8/5

- ID: C23012
- 参加プログラム/Program: サマープログラム(各協定校主催)
- プログラム情報/Program info.: https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-partners_summer.html
- 派遣先大学/Host university: カリフォルニア大学バークレー校・コペンハーゲン大学
- プログラム期間/Program period (YYYY/MM/DD): 2023/8/7 ~ 2023/9/1
- 東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 教育学部
- 学年(プログラム開始時)/Year at the time of Study Abroad: 学部 4 年

■ 参加にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to participate:

プログラムを見つけたのがこの時期だったためです。また、直前まで長期の全学交換留学に参加しており、プログラムが開催される 7 月に東京大学の授業の予定等が入っていなかったのも追い風になりました。

■ 参加を決めるまでの経緯/How and why did you decide to participate?:

3 月に国際教育推進課のサマープログラムのキュレーションページを見てプログラムの存在を知りました。内容が自分の興味分野や経験したいこと(人類学 × 途上国開発というテーマ、現地でフィールドワークができることなど)とドンピシャでかぶっていたので、すぐに応募することを決めました。費用が安くないことがネックでしたが、奨学金を獲得することを条件に親からの承諾も得られたので参加を決めました。

プログラムについて/About the program you participated in

■ 概要/Overview:

プログラムのキーワードは Borderland / Migration, Mobility & Immobility で、国境地帯での人の移動(あるいは移動できないこと)のダイナミズムについての理解を深めるとともに、そのような現象が多く観察されるいわゆる Global South と呼ばれる地域にいわゆる先進国からの研究者や支援者が関わりに行くことの倫理的問題・力関係を批判的に捉え直すことを目的としたものでした。プログラムの構成としては、大まかには以下のようなものでした。

1 週目: プログラムのテーマに関連した講義シリーズ。IARU の加盟各大学や主催地のタイの大学からテーマに関連した研究を行っている教授を主にオンラインで招聘し、講義を聴講する(質疑応答・ディスカッションあり)。1 週目の週末には近隣の移民労働力を用いたコーヒー生産が有名な村にフィールドトリップに出かけた。

2,3 週目: アプリケーション時に記載した自身の学問的バックグラウンドやプログラム参加の動機をもとに主催者が割り振った現地の NGO で短期インターンを行う。私は BEAM Education Foundation というタイ在住の移民の若者(主にミャンマー移民/難民)に教育や職業訓練を提供している NGO で、他に同じ機関に配属された 3 人のプログラム参加生とともにインターンを行った。

4 週目: 最終課題である Research Proposal (プログラムのテーマに関連した研究テーマを自分で考案し、

その企画書のようなものを執筆する)の執筆期間及び、インターンの成果報告のプレゼンテーションの準備期間。Research Proposal に関しては教授陣と定期的に 1 on 1 を行ってフィードバックを受けることができる。最終日にはプレゼンテーション及びプログラム終了セレモニーが行われた。
■ 学習・研究以外の活動で、取り組んだものをすべて教えてください/Activities you took part in other than this program :
取り組んでいない。
■ 学習・研究以外の活動で、取り組んだものについて、具体的に教えてください/Details of the activities you chose in other than this program :
インターンシップには取り組みましたがプログラムの一環なので学習・研究「以外の活動」には含まれないかと思います。それ以外に関しては基本的にプログラムが忙しかったので他のことをする余裕はありませんでした。
■ 週末の過ごし方を教えてください/How did you spend the weekends and vacations? :
プログラムの予定がなく体力が余っている時は他のプログラム参加生と一緒に街の散策や少し遠出して観光に出かけたりしました。特にチェンマイの旧市街で行われている週末のマーケットには毎週末出かけていました。体力がない時や一人の時間を過ごしたいときは誰にもあわずゆっくりホテルの部屋で過ごしたりタイマッサージに出かけることもありました。
■ プログラム期間中の自由時間について、ご意見をお聞かせください/How did you think about the program time slot (time-zone difference):
特に不満はない。
■ プログラム日数(長さ)はいかがでしたか/How was the length of the program? :
ちょうど良かった

参加前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before participation

■ プログラムへの参加手続き/Procedures for participation :
対主催大学:アプリケーションにあたっては CV と参加志望理由などを記入するアプリケーションフォーム等の提出を求められました。分量自体は多くありませんが英語の CV を作ったことがない方はフォーマット等も定められていないので作成に少々時間がかかるかもしれません。ネットの情報などを参考にしながら作成しました。 対東京大学:本部国際教育推進課には UTAS 経由の申し込みのほか、参加決定後には渡航情報届等の必要書類を提出しました。所属学部には海外渡航届等を提出しました。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo :
直前まで別の長期留学に参加していた関係でプログラムが開催される 7 月には東京大学での授業や試験などの予定はなかったため、特にスケジュールを調整する必要なく参加することができました。
■ 語学関係の準備/Language preparation :
直前まで長期留学に参加していたので、語学の精神的・実際のハードルは比較的低かったように思います。

費用・奨学金に関する事/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■参加するために要した費用/Expenses of participation :	
航空費/Airfare	80,000 円/JPY
派遣先大学への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition, facilities fee, etc.)	240,000 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	0 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	9,430 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance and/or social security (required by host institution/region/country)	0 円/JPY
■その他、補足等/Additional comments :	

■留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period :	
家賃/Rent	40,000 円/JPY
食費/Food	25,000 円/JPY
交通費/Transportation	5,000 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	10,000 円/JPY
■その他、補足等/ Additional comments :	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無/Scholarships to participate :	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :	
IARU Stipend	
■受給金額(月額)/Monthly stipend :	
130,000 円	
■受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :	
1,000USD です。プログラムの主催団体(IARU)からの受給です。	
■奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :	
大学(上記以外)からの案内	

プログラムを振り返って/Reflection

■プログラムに参加したことの意義、その他所感/Impact of the participation on yourself or your thoughts :
<p>プログラムに参加して本当に良かったと思います。志望理由として記述したプログラムへの参加目的は、①自分の興味分野である人類学×途上国開発といったテーマへの理解を深め、関心を尖らせること②その分野に対する自分の適性や意志の強さを測ること③似た関心を持つ学生や教授とのネットワークを形</p>

成すること、等でしたが、全ての目的を高い水準で達成できただけでなく、応募段階では想像できなかった様々な人間的・学問的成長を得ることができました。人間的な部分では、日本人のほぼいないインターナショナルな環境で自分の立場を確立し、異なるバックグラウンドを持つ人々と互いを尊重しながら関係を深めていく経験を得られました。息抜きのできる日本人の友人との時間がほぼないという点、ほぼ 24 時間を他の参加生とともにするという点、息継ぎの少ないインテンシブなプログラムであるという点などで長期留学とは異なるハードルがありましたが、留学を経て得た人間的成長や異文化コミュニケーションスキルを発揮しつつ短期間のプログラムの中でもさらに成長することができたと思っています。またこのチャレンジな環境下において与えられたものを最低限こなすだけでなく自ら付加価値を追求し、前のめりに取り組んでいけたことでさらに自信も身についたと思います。学問的な部分では、留学を経て芽生えた関心（特にイスラエル・パレスチナ問題）をこのプログラムでさらに追求し、具体的な自分の関心を尖らせることができ、またこのテーマに中長期的に取り組んでいきたいと思えるようになりました。

■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting:

海外のマスターに進学したいとプログラム以前から考えていましたが、プログラムを経てそのモチベーションはさらに強まりました。また、アカデミックなキャリアで取り組みたいテーマの解像度も上がりました。

■ 進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned):

公的機関, 海外大学院進学を検討しています。

■ 今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants:

自分が参加した以外のプログラムについてはわかりませんが、ただ「長期留学の短い版」ではなく、短期留学には短期留学の価値があると思いました。特に、短い期間だからこそインテンシブに自分の興味のあることに向き合い、必ずしも息継ぎする必要なく濃密な時間を走り抜けられることは短期留学だからこそその価値だと思います。私の参加したプログラムに限定して言えば、「途上国開発」や「平和・紛争学」、「移民」「難民」などに関心のある学生にはぜひ参加を検討していただきたいです。上記のテーマに長期的に関わっていく上で日本を出ることは必要になる可能性が高いので、専門的な内容について海外の学生や教授と英語でディスカッションしたりする経験は非常に価値があると思います。また、日本ではあまり紹介されていないけれども重要な当該分野の最新のトレンドやトピックに触れて理解を深めることもできます。そして何より、似ているけれども少しずつ違う関心を持っていて、しばしば自分よりも何歩も先を進んでいる学生や教授の方々とグローバルにネットワーキングし、近い関係を築けることはキャリアの上でも人生を送る上でも大きな財産になると思います。少しでも興味のある方はぜひ参加を検討していただきたいです。

■ 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas:

特にないです。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from a week to 3 months)

記入日/Date: 2023/8/1

- ID: C23020
- 参加プログラム/Program: サマープログラム(各協定校主催)
- プログラム情報/Program info.: https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-partners_summer.html
- 派遣先大学/Host university: カリフォルニア大学バークレー校・コペンハーゲン大学
- プログラム期間/Program period (YYYY/MM/DD): 2023/8/7 ~ 2023/9/1
- 東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 教養学部
- 学年(プログラム開始時)/Year at the time of Study Abroad: 学部 4 年

■ 参加にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to participate:
就活を終え、留学できるタイミングがここしかなかったから。
■ 参加を決めるまでの経緯/How and why did you decide to participate?:
コロナ禍で留学になかなか行けず、この夏が最後のチャンスになると考えたから。

プログラムについて/About the program you participated in

■ 概要/Overview:
参加日に予習用の文献が共有され、それらを読んだ前提で講義と質疑応答が行われた。復習の概念はなく、成果を発揮する場はリサーチプロポーザルに集約されていた。授業のスタイルとして、質疑応答の時間が長かったことが印象に残った。フィールドワークについては、2 週間現地の NGO でインターンを行った。参加者ごとに異なる NGO に割り振られ、自分はミャンマー情勢に関するシンクタンクに派遣された。ここではミャンマーへの重大な関与が知られている日本のとある財団について日本語で調査し、英語で 20 分ほどプレゼンするというタスクを与えられた。期間に比して仕事量が少なく、早めに上司に結果を報告したところ、追加で日本のミャンマー向け投資についても調査してほしいと依頼され、これも実施した。またインターン中に時間が有り余っていたため、この間にリサーチプロポーザルと、プログラム期間中に行う、インターン先の NGO に関するプレゼンも準備した。同僚としてプログラムから参加した現地の院生も含めて、NGO 内での作業言語はビルマ語であり、少しは勉強してから参加すればよかったと若干後悔した。
■ 学習・研究以外の活動で、取り組んだものをすべて教えてください/Activities you took part in other than this program:
スポーツ, インターンシップ
■ 学習・研究以外の活動で、取り組んだものについて、具体的に教えてください/Details of the activities you chose in other than this program:
スポーツは余暇に水泳、ハイキング、スポーツクライミングに挑戦した。
■ 週末の過ごし方を教えてください/How did you spend the weekends and vacations?:
近隣の観光スポット(寺院、ナイトマーケットなど)を散策したり、ホテルで休息するなどした。自分のルームメイトは、NGO のリモートワークを活かして、タイ南部の島に小旅行に行っていた。

■プログラム期間中の自由時間について、ご意見をお聞かせください/How did you think about the program time slot (time-zone difference):

特に不満はない。

■プログラム日数(長さ)はいかがでしたか/How was the length of the program?:

ちょうど良かった。

参加前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before participation

■プログラムへの参加手続き/Procedures for participation:

UTAS のシステム上から出願。採択決定後主催大学(コペンハーゲン大学)から案内メールがあり、参加費を納入し、オンラインでの説明会 1 回を含む事前情報が提供された。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo:

時期的に S セメスターの期末試験と被るため、担当の教員の方々と相談し、持ち帰り型の試験に切り替えるなど、特別措置を講じていただいた。

■語学関係の準備/Language preparation:

IELTS7.0 レベル、しかしスピーキングが苦手かつ、アメリカ英語に耳がなれておらず、コミュニケーションに苦労した感は否めない。タイ語もかじって行ったが(1セメスター分の駒場の授業)、英語でプログラムのメンバーとコミュニケーションを取る場面がほとんどで、あまり意味はなかった。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■参加するために要した費用/Expenses of participation:

航空費/Airfare	95,000 円/JPY
派遣先大学への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition, facilities fee, etc.)	250,000 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	0 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	7,530 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance and/or social security (required by host institution/region/country)	0 円/JPY

■その他、補足等/Additional comments:

■留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period:

家賃/Rent	40,000 円/JPY
食費/Food	30,000 円/JPY
交通費/Transportation	5,000 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	5,000 円/JPY

■その他、補足等/ Additional comments :
■プログラム参加のための奨学金の受給有無/Scholarships to participate :
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :
JASSO
■受給金額(月額)/Monthly stipend :
230,000 円
■受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :
■奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :
大学(本部国際教育推進課)からの案内

プログラムを振り返って/Reflection

■プログラムに参加したことの意義、その他所感/Impact of the participation on yourself or your thoughts :
何より初めての留学を経験できた意義は大きい。これで大学時代に一番やりたかったことをコロナ禍を経て4年越しに叶えられた。一方で、自分の英語力に不測はこれ以上ないほど痛感した、最低限自分の意志を伝えることができても、ネイティブの雑談に参加できない自身のリスニング力を恨むことが多く、まだまだ鍛錬が必要だと感じた。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting :
特になし。すでに就職先が決まっている状態での渡航であり、正直変わりようがなかった。他の参加者からは、しきりに欧米で働いたり、転職することを勧められたが、日本の固定的な雇用環境に個人的には満足している旨を伝えた。
■進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned) :
民間企業
■今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants :
大学四年間は自分で充実させないとあっという間に過ぎていくので、迷っている人はとりあえず行ってみて、それから後悔すればいいと思います。迷っている理由が費用面の問題であるならば、このプログラムを含む、東南アジアなどの物価の安い地域でのプログラムをお勧めします。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas :
Global Komaba